

翔

No.173

April

2005

アサギマダラの春の移動に関する新しい知見

松 井 正 人

■初めに

アサギマダラは、春に日本列島を北上し、秋には日本列島を南下する蝶として知られ、その移動コースは、マーキング調査によって明らかにされつつある。しかし、南下移動コースについては、順調に成果が上がっているものの、北上移動コースについては、ほとんど成果が上がらず、謎に包まれている。これは、南下移動するアサギマダラはヒヨドリバナの仲間に誘引されることが良く知られ調査が容易なのに対し、北上移動する個体は、誘引される植物があまり知られていない事が原因のひとつになっていると思われる。

近年、春から初夏にかけて、アサギマダラを誘引する植物としてスナビキソウの存在が指摘され（山本・足立、2004）、石川県においてもスナビキソウから吸蜜するアサギマダラが観察されている（林・松井、2004）ことから、スナビキソウが北上移動する個体のマーキングに利用できないか調査をおこなった。

その結果、北上移動中と思われるアサギマダラを、海岸に生育するスナビキソウ周辺で多数観察することができ、今後の春のマーキングに利用できることがわかり、北上移動に関する新たな知見が得られたので報告する。

報告に先立ち、本稿へのご助言をはじめとして、常日頃より多大なご支援・ご助言をいただいている富沢 章氏、海岸で観察されたアサギマダラの紹介など今回の調査のきっかけを与えていただいた矢田新平氏、輪島市での調査にご協力いただき舢倉島の調査記録をまとめていただいた日吉芳朗氏、山口海岸での調査にご協力いただいた林 宏初氏、舢倉島の観察記録を寄せていただいた浅田利明、稲垣 修、後藤義夫、大角 しのぶ、中村暢男、中村正博、前田 崇雄、南 祐治の各氏、塩屋海岸の観察記録を寄せていただいた山前雅裕氏に心からお礼申し上げる。

■調査場所と調査方法

（1）調査場所と調査の進め方

調査場所は、輪島市から金沢市に至る220km間の海岸、輪島市舢倉島、及び根上町山口海岸で、主にスナビキソウが生育しそうな砂浜である。輪島市の範囲は日吉芳朗氏、根上町山口海岸は林 宏初氏、その他の海岸については筆者が調査をおこなった。

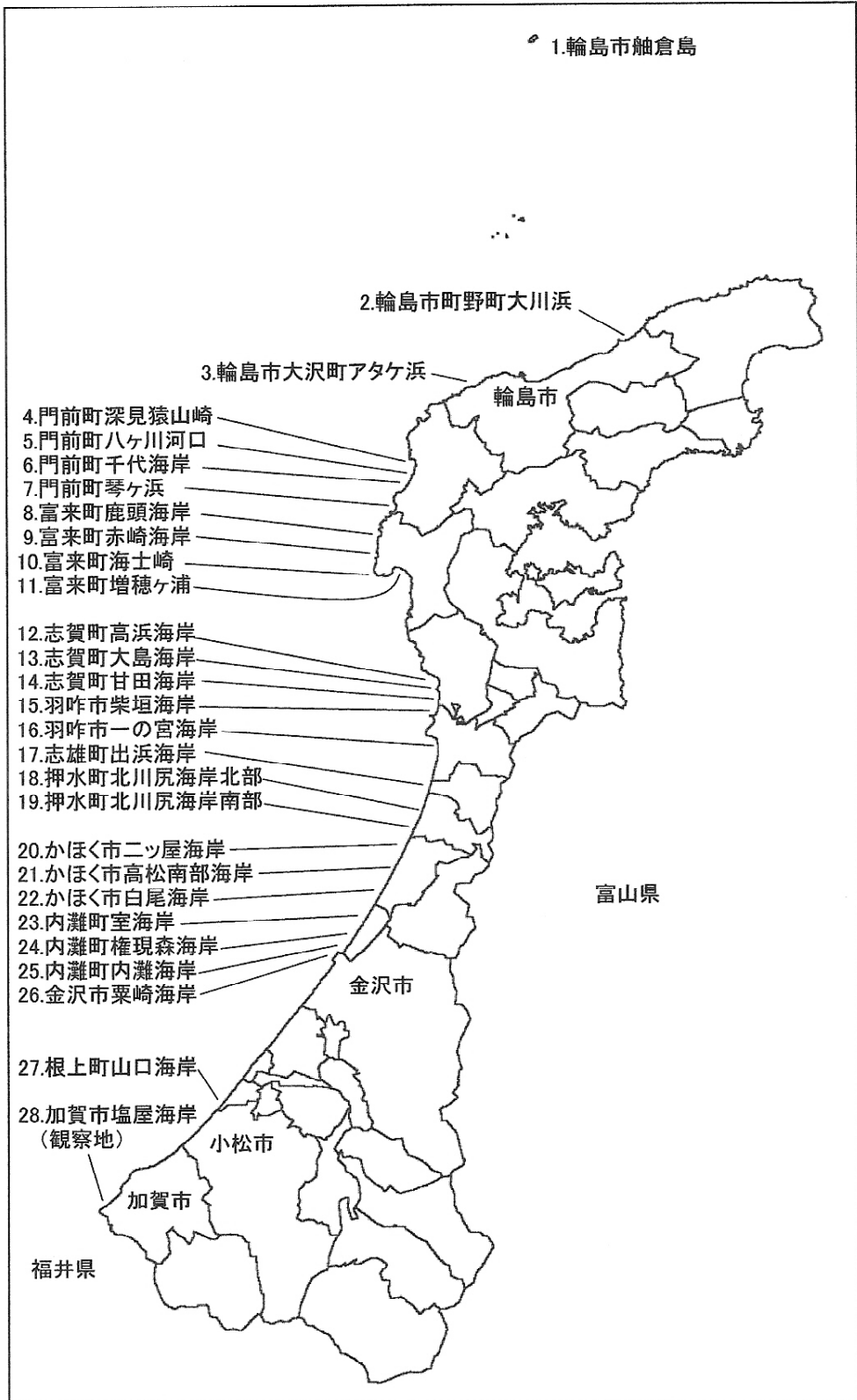
調査期間は、2004年4月24日から6月10日にかけてで、主に休日を利用した。

（2）門前町から金沢市にかけての調査方法

4月下旬から5月中旬は、汀線に沿って海岸を歩き、スナビキソウの発見に努め、5月中旬以降は、スナビキソウを観察した海岸でアサギマダラをさがした。

調査は、調査日毎に金沢市から北上しながら次々と海岸を移動したため、金沢市から離

図-1. 調査地と観察地



れるに従って調査開始時間は遅くなった。1日の調査開始時間は、当初は9時頃だったが、調査が進むにつれ徐々に早くなり、5月末には早朝5時から調査を始めた。海岸内での調査は徒歩で1往復し、海岸から海岸への移動には自動車を使った。

■結果

(1) スナビキソウの生育地と開花

汀線から内陸部にかけて緩やかに傾斜し幅が広い砂浜には、スナビキソウが多かった。磯浜、砂利浜でもスナビキソウは観察できたが、浸食が激しく汀線部が垂直な壁のようになった海岸では観察できなかった。また、海浜植生の最も汀線に近い場所に多く見られ、海が荒れても波に洗われることがないような多様な海浜植物で埋め尽くされた場所では、スナビキソウは、ほとんど観察できなかった。

スナビキソウの花は5月1日に確認し、5月8日頃より複数の海岸でチラホラ咲きの状態となり、5月22日頃より満開状態になった。同じ場所に生えているハマボスより、幾分遅れて咲き始めた。

表-1.スナビキソウとアサギマダラの調査結果

No	海岸	スナビキソウ	海岸形状	調査延長	アサギマダラ観察数
1	輪島市舳倉島	多い	磯		31頭
2	輪島市町野町大川浜	少ない	砂浜		44頭
3	輪島市大沢町アタケ浜	少ない	砂浜		4頭
4	門前町深見猿山崎	少ない	磯	0.2km	30頭
5	門前町八ヶ川河口	発見できず	砂浜		-
6	門前町千代海岸	少ない	砂浜		-
7	門前町琴ヶ浜	発見できず	砂浜		-
8	富来町鹿頭海岸	少ない	砂利浜	0.4km	25頭
9	富来町赤崎海岸	少ない	荒砂浜	1.0km	15頭
10	富来町海士崎	少ない	磯		-
11	富来町増穂ヶ浦	少ない	砂浜	1.5km	23頭
12	志賀町高浜海岸	少ない	砂浜		0頭
13	志賀町大島海岸	少ない	砂浜		-
14	志賀町甘田海岸	多い	砂浜	2.0km	71頭
15	羽咋市柴垣海岸	少ない	砂浜		0頭
16	羽咋市一の宮海岸	多い	砂浜	0.5km	40頭
17	志雄町出浜海岸	発見できず	砂浜		-
18	押水町北川尻海岸北部	発見できず	砂浜		-
19	押水町北川尻海岸南部	少ない	砂浜	0.6km	7頭
20	かほく市二ッ屋海岸	少ない	砂浜	0.3km	4頭
21	かほく市高松南部海岸	少ない	砂浜		-
22	かほく市白尾海岸	少ない	砂浜		-
23	内灘町室海岸	発見できず	砂浜		-
24	内灘町権現森海岸	発見できず	砂浜		-
25	内灘町内灘海岸	少ない	砂浜	0.6km	6頭
26	金沢市粟崎海岸	少ない	砂浜	0.1km	5頭
27	根上町山口海岸	少ない	砂浜	0.1km	12頭
28	加賀市塩屋海岸(観察地)	不明	砂浜		2頭

荒砂浜：砂粒が大きな砂浜で歩きにくい

-：未調査を示す



(左)

今回の調査で初確認のアサギマダラ。午前中はスナビキソウの花に口吻を伸ばしていたが、午後5時の観察では、踏みつけられて傷ついたスナビキソウの茎に口吻を伸ばしていた。後方は日本海。

2004年5月15日

羽咋市一の宮海岸にて

(下)

オフロード車が走り回る広い砂浜の片隅にスナビキソウの群落があり、踏み込むとアサギマダラがフワリと舞い上がった。

2004年5月29日

金沢市粟崎海岸にて



(2) アサギマダラの観察

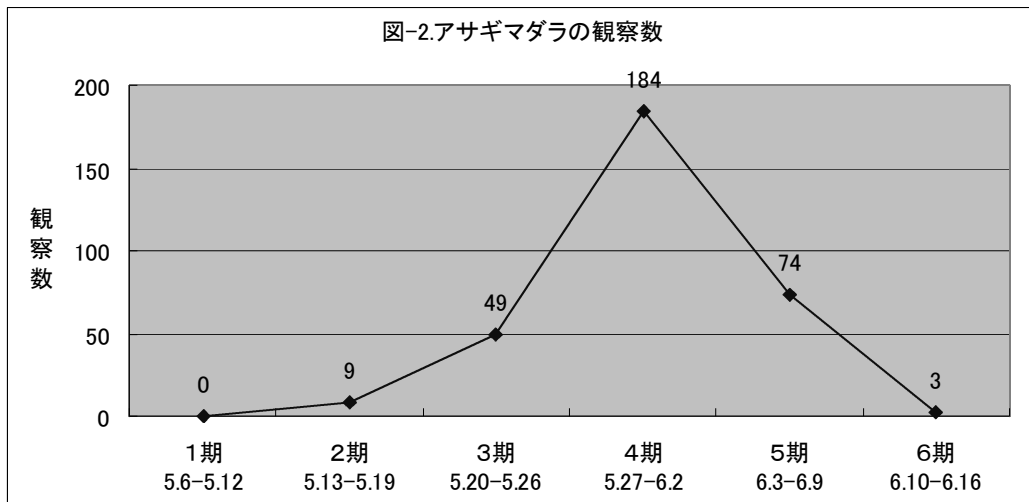
調査期間に319頭の飛来が観察された。飛来は、5月15日の9頭に始まり、5月29日の104頭がピークで、6月10日の3頭が最終観察となった。また、1日に10頭以上が観察された始期は5月22日で、終期は6月5日となり、この間は13日間だった。

調査は主に休日におこなったため、7日を1調査期間とすると、観察数のピークは5月末の4期となり、3期～5期の3週間で全体の96%が観察されている。

表-2.アサギマダラの観察数

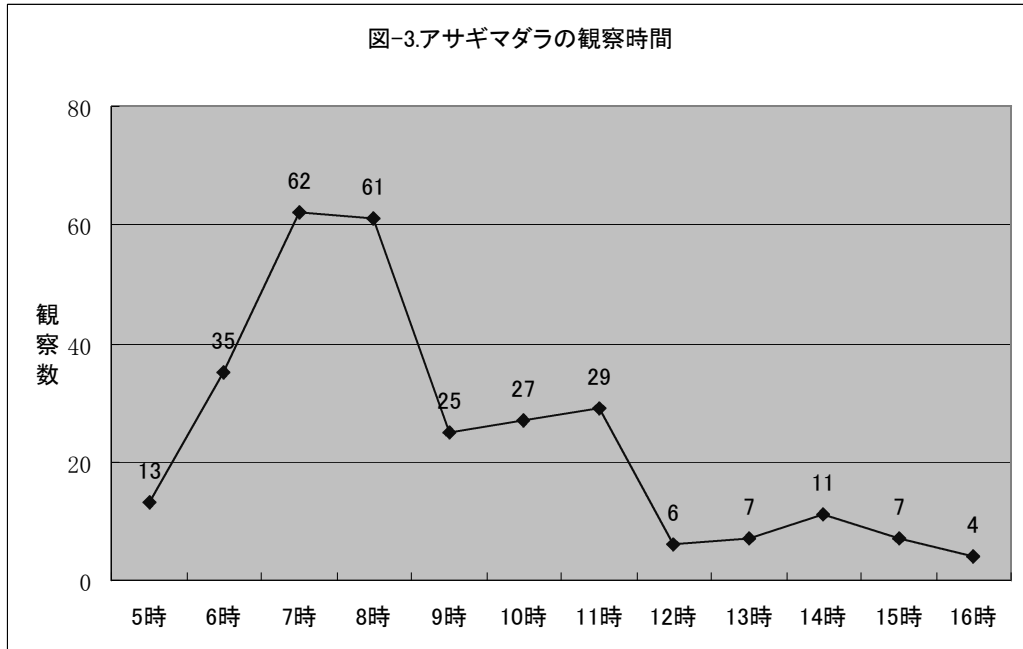
	場所	1期	2期	3期	4期	5期	6期	計
		5月6日	5月13日	5月20日	5月27日	6月3日	6月10日	
		～ 5月12日	～ 5月19日	～ 5月26日	～ 6月2日	～ 6月9日	～ 6月16日	
1	輪島市舳倉島	0	1	22	7	1	0	31
2	輪島市町野町大川浜	—	—	2	25	14	3	44
3	輪島市大沢町アタケ浜	—	—	—	4	—	—	4
4	門前町深見猿山崎	—	—	—	—	30	—	30
8	富来町鹿頭海岸	—	—	0	18	7	—	25
9	富来町赤崎海岸	—	—	0	14	1	—	15
11	富来町増穂ヶ浦	—	2	10	5	6	—	23
12	志賀町高浜海岸	0	0	—	—	—	—	0
14	志賀町甘田海岸	0	3	12	53	3	—	71
15	羽咋市柴垣海岸	0	0	—	—	—	—	0
16	羽咋市一の宮海岸	0	3	3	22	12	—	40
19	押水町北川尻海岸南部	—	0	0	7	—	—	7
20	かほく市二ツ屋海岸	—	0	0	4	—	—	4
25	内灘町内灘海岸	—	—	—	6	0	0	6
26	金沢市粟崎海岸	—	—	—	5	0	0	5
27	根上町山口海岸	0	0	0	12	0	0	12
28	加賀市塩屋海岸(観察地)	—	—	—	2	—	—	2
	計	0	9	49	184	74	3	319

— : 未調査を示す



(3) 観察時間

観察時間が記録されている287頭を時間別にみると、午前7時～9時の2時間がピークで、午前5時～9時の4時間に全体の約60%、11時までの6時間に全体の約80%、12時までの7時間に全体の約90%を観察し、午後の5時間の観察数は全体の10%で少なかった。



(4) 再捕獲

土曜、日曜と連続した調査では、午前中にマークした個体を午後に再捕獲したり、前日にマークした個体を翌日に再捕獲するなど、16例の再捕獲があった。しかし、6日後となる翌週の調査では、再捕獲はまったくできなかった。また、再捕獲した場所は、すべて放蝶した地点であり、隣接海岸など場所が異なる地点での再捕獲はなかった。

(5) 観察個体の性別

飛来が観察された319頭のうち、性別が確認できたのは255頭(252♂3♀)であった。3♀は、すべて舩倉島で観察されたもので、他の海岸は、♂のみが観察された。

(6) その他

5月15日には、一の宮海岸で午前10時頃に観察した個体を、同日午後5時に同じ場所で観察した。午後5時の観察では、この個体は、たびたび飛び立つものの、スナビキソウの花には目もくれず、ひたすら踏みつけられ傷ついたスナビキソウの茎に口吻を伸ばしていた。

5月23日には、増穂ヶ浦で、海岸の背後に広がる松林の松に止まっている1♂を観察した。

6月5日には、猿山崎の背後の森林で、オオカモメヅルからアサギマダラの卵、13個を確認した。

■考察

(1) スナビキソウはマーキング調査に利用可能

海岸のスナビキソウ分布地では、時期と時間を合わせれば、確実にアサギマダラが観察でき、マーキング調査に利用できる頭数のいることがわかった。観察時期は、5月末を中心とした1週間で最も多く、その前後1週間を含めた3週間で、全観察数の96%が確認された。観察時間は、7時～9時の2時間が最も多く、午前中に全体の90%が確認された。

(2) 飛来の原因はPA摂取

舳倉島の♀3頭を除くと、海岸に飛来したのはすべて♂である。舳倉島は、島幅500m、最も高い標高が12mと島全体が海岸のような所であり、♀は海岸に飛来したというよりも、島に飛来したと考えられる。

海岸で、♂ばかりが観察された時期に、背後の森林内で卵が発見されたことや、舳倉島で♂とほぼ同数の♀が観察されていることから、この時期には♂♀両方が飛来しているものと思われる。

ヨツバヒヨドリやスイゼンジナなど、アサギマダラを強く誘引することが知られている植物にはピロリジジナルカロイド(PA)が含まれていることが知られ、スナビキソウにも含まれている。♂は、PAを接種しないと性フェロモンを生成できないとされ(本田、2003)、PA摂取は♂にとって重要な問題である。

一の宮海岸でスナビキソウの茎の傷口に口吻を伸ばしていたアサギマダラや、♂♀両方が飛来しているにも関わらず、海岸では♂しか観察できないのは、海岸のスナビキソウからは、花の蜜といった栄養ではなくPAを摂取しているためと思われる。

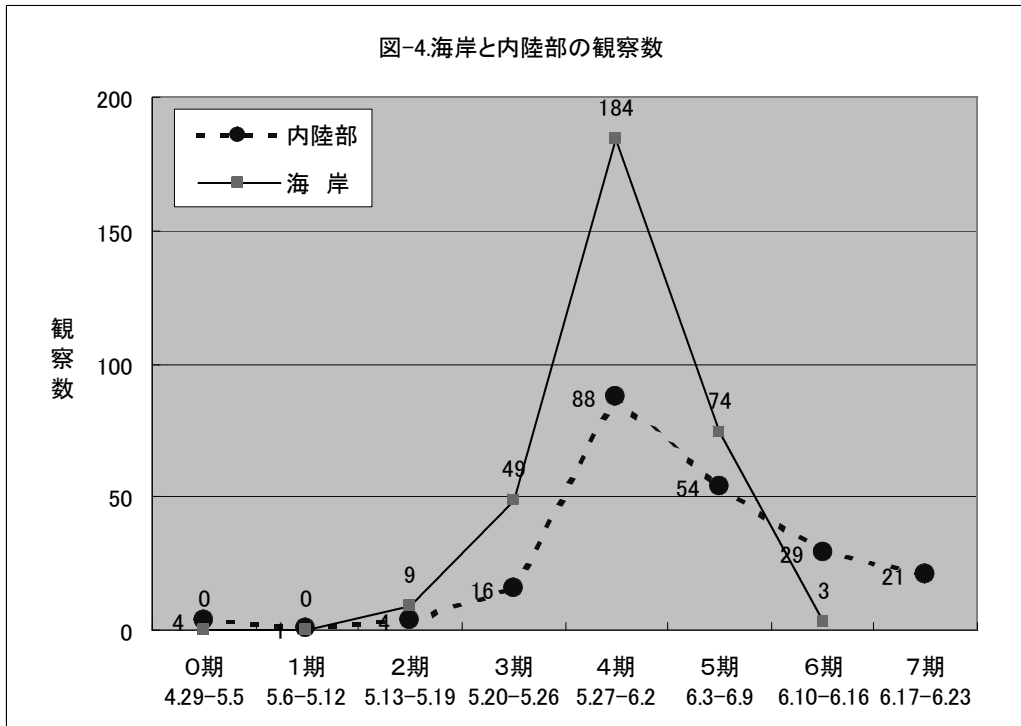
(3) 移動の方法

今回の調査では、同じ海岸で再捕獲できたのに、隣接海岸など異なる海岸での再捕獲はなかった。このことから、海岸線に沿って移動するのではなく、海から上陸し、そのまま内陸部へ移動している可能性がある。また、翌日に再捕獲されたり、海岸の背後林でも見られたことから、背後林を利用して海岸部に1日から数日間滞在していることが考えられる。ただし、これは♂についてであり、♀については不明である。

(4) 海岸に長居しない

春のアサギマダラは、これまでは偶然に観察される存在であった。それでも、1957年から2003年までのデータを集計すると、4月29日から6月23日までの間に217頭の成虫が観察されている。このデータを内陸部のデータと推定し、今回の海岸で観察されたデータと比較したのが、図-4である。

今回の、海岸における観察数が、過去47年間に内陸部で観察された数を大きく上回り、海岸での観察時期やピークが、内陸部の記録とほとんど同じであることがわかる。しかし、観察後期の6、7期では、海岸部での観察数が急激に減少するが、内陸部での観察数は、緩やかに減少し、内陸部の観察数が海岸部を上回っている。これは海岸に飛来したアサギ



マダラが、海岸に長居せず内陸部に移動するためと思われる。

■まとめ

(1) アサギマダラはスナビキソウに誘引されるのは、PA摂取のためであり、♀は飛来しない。飛来時期は、5月末を中心とした3週間程度で、飛来時間は7時～9時の2時間が最も多く、春のマーキングに利用できる。しかし、午後の飛来はきわめて少なかった。

(2) 春の北上移動時には、海上から石川県への進入があり、進入後は海岸沿いには移動せず内陸部に移動するものと思われる。この際、海岸の背後林などを利用して数日間滞在するものと考えられるが、長期間とどまることはない。

この移動方法は、♂の観察結果から推定したものであるが、♀も♂と共に海上から進入してくるものと思われる。しかし、♀は、海岸に飛来するメリットがないために通り過ぎ、直ちに内陸部へ移動するものと考えられた。

■参考文献

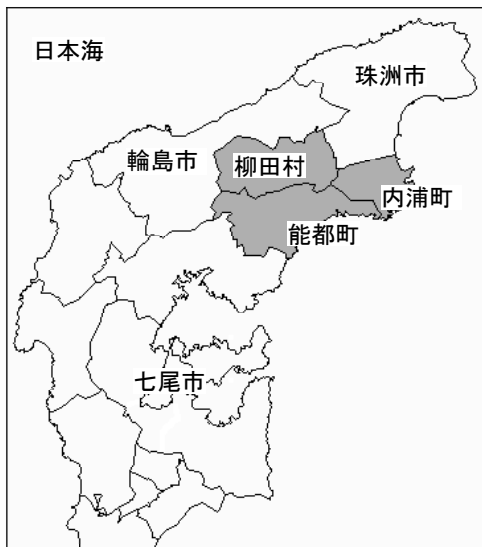
- 林 宏初・松井正人(2004)石川県でスナビキソウから吸蜜するアサギマダラを観察. 翔(168):1-2.
 本田計一(2003)マダラチョウ類とアルカロイド. 旅をする蝶アサギマダラ:118-126. 月刊むし社.
 山本博子・足立義弘(2004)春～初夏の誘引植物の本命スナビキソウの分布. 昆虫と自然(510):23-25.

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

能都町・柳田村・内浦町の合併に伴う住所表示の変更

蝶談会事務局

2005年3月1日に、鳳至郡（ふげしぐん）の能都町、同郡の柳田村及び珠洲郡の内浦町が合併し、「鳳珠郡能登町（ほうすぐんのとちょう）」が誕生した。この合併に伴う住所表示の変更についてお知らせする。



■合併後の住所表示

1. 鳳至郡能都町

「鳳至郡能都町」が「鳳珠郡能登町」に置き換わった。

表示例 鳳至郡 能都町 字 猪平
→ 鳳珠郡 能登町 字 猪平

2. 鳳至郡柳田村

「鳳至郡柳田村」が「鳳珠郡能登町」に置き換わった。字名に一部変更が有り、「字 長尾」が「字 上長尾」となった。

表示例 鳳至郡 柳田村 字 五十里 → 鳳珠郡 能登町 字 五十里
鳳至郡 柳田村 字 長尾 → 鳳珠郡 能登町 字 上長尾

3. 珠洲郡内浦町

「珠洲郡内浦町」が「鳳珠郡能登町」に置き換わった。字名に一部変更が有り、「字 長尾」が「字 内浦長尾」となった。

表示例 珠洲郡 内浦町 字 秋吉 → 鳳珠郡 能登町 字 秋吉
珠洲郡 内浦町 字 長尾 → 鳳珠郡 能登町 字 内浦長尾

■新旧対照表

旧 名 称	新 名 称	よみかた
鳳至郡 能都町 字 猪平	→ 鳳珠郡 能登町 字 猪平	いのひら
鳳至郡 能都町 字 宇加塚	→ 鳳珠郡 能登町 字 宇加塚	うかづか
鳳至郡 能都町 字 鶺鴒川	→ 鳳珠郡 能登町 字 鶺鴒川	うかわ
鳳至郡 能都町 字 宇出津	→ 鳳珠郡 能登町 字 宇出津	うしつ
鳳至郡 能都町 字 宇出津新	→ 鳳珠郡 能登町 字 宇出津新	うしつしん
鳳至郡 能都町 字 宇出津新港	→ 鳳珠郡 能登町 字 宇出津新港	うしつしんこう
鳳至郡 能都町 字 宇出津山分	→ 鳳珠郡 能登町 字 宇出津山分	うしつやまぶん
鳳至郡 能都町 字 小浦	→ 鳳珠郡 能登町 字 小浦	おうら
鳳至郡 能都町 字 大沢	→ 鳳珠郡 能登町 字 大沢	おおさわ
鳳至郡 能都町 字 太田原	→ 鳳珠郡 能登町 字 太田原	おおだわら
鳳至郡 能都町 字 小垣	→ 鳳珠郡 能登町 字 小垣	おがき
鳳至郡 能都町 字 柿生	→ 鳳珠郡 能登町 字 柿生	かきお
鳳至郡 能都町 字 柏木	→ 鳳珠郡 能登町 字 柏木	かしわぎ
鳳至郡 能都町 字 黒郷	→ 鳳珠郡 能登町 字 黒郷	くろごう
鳳至郡 能都町 字 崎山	→ 鳳珠郡 能登町 字 崎山	さきやま

旧 名 称	新 名 称	よみかた
鳳至郡 能都町 字 鮭尾	→ 鳳珠郡 能登町 字 鮭尾	さけお
鳳至郡 能都町 字 七見	→ 鳳珠郡 能登町 字 七見	しちみ
鳳至郡 能都町 字 曾又	→ 鳳珠郡 能登町 字 曾又	そまた
鳳至郡 能都町 字 鶴町	→ 鳳珠郡 能登町 字 鶴町	つるまち
鳳至郡 能都町 字 波並	→ 鳳珠郡 能登町 字 波並	はなみ
鳳至郡 能都町 字 羽生	→ 鳳珠郡 能登町 字 羽生	はにゆう
鳳至郡 能都町 字 羽根	→ 鳳珠郡 能登町 字 羽根	はね
鳳至郡 能都町 字 姫	→ 鳳珠郡 能登町 字 姫	ひめ
鳳至郡 能都町 字 藤波	→ 鳳珠郡 能登町 字 藤波	ふじなみ
鳳至郡 能都町 字 藤ノ瀬	→ 鳳珠郡 能登町 字 藤ノ瀬	ふじのせ
鳳至郡 能都町 字 本木	→ 鳳珠郡 能登町 字 本木	ほんき
鳳至郡 能都町 字 俎倉	→ 鳳珠郡 能登町 字 俎倉	まないたぐら
鳳至郡 能都町 字 真脇	→ 鳳珠郡 能登町 字 真脇	まわき
鳳至郡 能都町 字 瑞穂	→ 鳳珠郡 能登町 字 瑞穂	みずほ
鳳至郡 能都町 字 宮地	→ 鳳珠郡 能登町 字 宮地	みやち
鳳至郡 能都町 字 武連	→ 鳳珠郡 能登町 字 武連	むれ
鳳至郡 能都町 字 矢波	→ 鳳珠郡 能登町 字 矢波	やなみ
鳳至郡 能都町 字 山田	→ 鳳珠郡 能登町 字 山田	やまだ
鳳至郡 能都町 字 吉野	→ 鳳珠郡 能登町 字 吉野	よしの
鳳至郡 柳田村 字 五十里	→ 鳳珠郡 能登町 字 五十里	いかり
鳳至郡 柳田村 字 石井	→ 鳳珠郡 能登町 字 石井	いしい
鳳至郡 柳田村 字 大箱	→ 鳳珠郡 能登町 字 大箱	おおぼこ
鳳至郡 柳田村 字 小間生	→ 鳳珠郡 能登町 字 小間生	おもう
鳳至郡 柳田村 字 神和住	→ 鳳珠郡 能登町 字 神和住	かみわすみ
鳳至郡 柳田村 字 鴨川	→ 鳳珠郡 能登町 字 鴨川	かもがわ
鳳至郡 柳田村 字 上町	→ 鳳珠郡 能登町 字 上町	かんまち
鳳至郡 柳田村 字 北河内	→ 鳳珠郡 能登町 字 北河内	きたかわち
鳳至郡 柳田村 字 久田	→ 鳳珠郡 能登町 字 久田	きゆうでん
鳳至郡 柳田村 字 桐畑	→ 鳳珠郡 能登町 字 桐畑	きりはた
鳳至郡 柳田村 字 国光	→ 鳳珠郡 能登町 字 国光	くにみつ
鳳至郡 柳田村 字 黒川	→ 鳳珠郡 能登町 字 黒川	くろがわ
鳳至郡 柳田村 字 合鹿	→ 鳳珠郡 能登町 字 合鹿	ごうろく
鳳至郡 柳田村 字 五郎左エ門分	→ 鳳珠郡 能登町 字 五郎左エ門分	ごろざえもんぶん
鳳至郡 柳田村 字 斉和	→ 鳳珠郡 能登町 字 斉和	さいわ
鳳至郡 柳田村 字 笹川	→ 鳳珠郡 能登町 字 笹川	ささがわ
鳳至郡 柳田村 字 十郎原	→ 鳳珠郡 能登町 字 十郎原	じゅうろはら
鳳至郡 柳田村 字 鈴ヶ嶺	→ 鳳珠郡 能登町 字 鈴ヶ嶺	すずがみね
鳳至郡 柳田村 字 寺分	→ 鳳珠郡 能登町 字 寺分	てらぶん
鳳至郡 柳田村 字 天坂	→ 鳳珠郡 能登町 字 天坂	てんざか
鳳至郡 柳田村 字 当目	→ 鳳珠郡 能登町 字 当目	どうめ
鳳至郡 柳田村 字 中斉	→ 鳳珠郡 能登町 字 中斉	なかさい
鳳至郡 柳田村 字 長尾	→ 鳳珠郡 能登町 字 上長尾	かみながお
鳳至郡 柳田村 字 柳田	→ 鳳珠郡 能登町 字 柳田	やなぎだ
珠洲郡 内浦町 字 秋吉	→ 鳳珠郡 能登町 字 秋吉	あきよし
珠洲郡 内浦町 字 明野	→ 鳳珠郡 能登町 字 明野	あけの
珠洲郡 内浦町 字 泉	→ 鳳珠郡 能登町 字 泉	いづみ
珠洲郡 内浦町 字 市之瀬	→ 鳳珠郡 能登町 字 市之瀬	いちのせ
珠洲郡 内浦町 字 小木	→ 鳳珠郡 能登町 字 小木	おぎ
珠洲郡 内浦町 字 越坂	→ 鳳珠郡 能登町 字 越坂	おっさか
珠洲郡 内浦町 字 河ヶ谷	→ 鳳珠郡 能登町 字 河ヶ谷	かがたに
珠洲郡 内浦町 字 上	→ 鳳珠郡 能登町 字 上	かみ
珠洲郡 内浦町 字 清真	→ 鳳珠郡 能登町 字 清真	きよさね
珠洲郡 内浦町 字 国重	→ 鳳珠郡 能登町 字 国重	くにしげ
珠洲郡 内浦町 字 九里川尻	→ 鳳珠郡 能登町 字 九里川尻	くりかわしり
珠洲郡 内浦町 字 恋路	→ 鳳珠郡 能登町 字 恋路	こいじ
珠洲郡 内浦町 字 駒渡	→ 鳳珠郡 能登町 字 駒渡	こまわたり
珠洲郡 内浦町 字 白丸	→ 鳳珠郡 能登町 字 白丸	しろまる
珠洲郡 内浦町 字 新保	→ 鳳珠郡 能登町 字 新保	しんぼ
珠洲郡 内浦町 字 滝之坊	→ 鳳珠郡 能登町 字 滝之坊	たきのぼう

旧 名 称	新 名 称	よみかた
珠洲郡 内浦町 字 田代	→ 鳳珠郡 能登町 字 田代	たしろ
珠洲郡 内浦町 字 立壁	→ 鳳珠郡 能登町 字 立壁	たてかべ
珠洲郡 内浦町 字 時長	→ 鳳珠郡 能登町 字 時長	ときなが
珠洲郡 内浦町 字 長尾	→ 鳳珠郡 能登町 字 内浦長尾	うちうらなご
珠洲郡 内浦町 字 布浦	→ 鳳珠郡 能登町 字 布浦	ぬのうら
珠洲郡 内浦町 字 羽生	→ 鳳珠郡 能登町 字 羽生	はにゆう
珠洲郡 内浦町 字 福光	→ 鳳珠郡 能登町 字 福光	ふくみつ
珠洲郡 内浦町 字 不動寺	→ 鳳珠郡 能登町 字 不動寺	ふどうじ
珠洲郡 内浦町 字 松波	→ 鳳珠郡 能登町 字 松波	まつなみ
珠洲郡 内浦町 字 満泉寺	→ 鳳珠郡 能登町 字 満泉寺	まんせんじ
珠洲郡 内浦町 字 宮犬	→ 鳳珠郡 能登町 字 宮犬	みやいぬ
珠洲郡 内浦町 字 明生	→ 鳳珠郡 能登町 字 明生	みょうじょう
珠洲郡 内浦町 字 山中	→ 鳳珠郡 能登町 字 山中	やまなか
珠洲郡 内浦町 字 行延	→ 鳳珠郡 能登町 字 行延	ゆきのべ
珠洲郡 内浦町 字 四方山	→ 鳳珠郡 能登町 字 四方山	よもやま

根上町・寺井町・辰口町の合併に伴う住所表示の変更

蝶談会事務局

2005年2月1日に、能美郡の根上町、同郡の寺井町、及び辰口町が合併し、「能美市（のみし）」が誕生した。この合併に伴う住所表示の変更についてお知らせする。

■ 合併後の住所表示

1. 能美郡根上町

「能美郡根上町」が「能美市」に置き換わり、高坂町の字の区域に変更があった。

表示例 能美郡 根上町 赤井町

→ 能美市 赤井町

2. 能美郡寺井町

「能美郡寺井町」が「能美市」に置き換わり、「字」が取れ、字名の後に「町」が付いた。

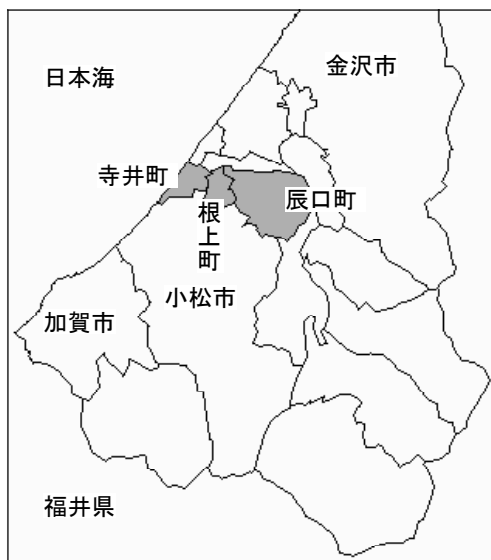
表示例 能美郡 寺井町 字 粟生 → 能美市 粟生町

3. 能美郡辰口町

「能美郡辰口町」が「能美市」に置き換わり、「字」が取れ、原則として字名の後に「町」が付いた。

表示例 能美郡 寺井町 字 辰口 → 能美市 辰口町

表示例 能美郡 寺井町 字 松が岡 → 能美市 松が岡



■新旧対照表

旧 名 称	新 名 称	よみかた
能美郡 根上町 赤井町	→ 能美市 赤井町	あかいまち
能美郡 根上町 大浜町	→ 能美市 大浜町	おおはままち
能美郡 根上町 五間堂町	→ 能美市 五間堂町	ごけんどうまち
能美郡 根上町 下ノ江町	→ 能美市 下ノ江町	しものごうまち
能美郡 根上町 高坂町 甲	→ 能美市 下ノ江町	しものごうまち
能美郡 根上町 高坂町 乙・丙	→ 能美市 根上町	ねあがりまち
能美郡 根上町 高坂町(その他)	→ 能美市 高坂町	たかさかまち
能美郡 根上町 大成町	→ 能美市 大成町	たいせいまち
能美郡 根上町 道林町	→ 能美市 道林町	どうりんまち
能美郡 根上町 中ノ江町	→ 能美市 中ノ江町	なかのごうまち
能美郡 根上町 中庄町	→ 能美市 中庄町	なかのしょうまち
能美郡 根上町 中町	→ 能美市 中町	なかもち
能美郡 根上町 西任田町	→ 能美市 西任田町	にしとうだまち
能美郡 根上町 西二口町	→ 能美市 西二口町	にしふたくちまち
能美郡 根上町 浜開発町	→ 能美市 浜開発町	はまかいのはつまち
能美郡 根上町 浜町	→ 能美市 浜町	はままち
能美郡 根上町 福岡町	→ 能美市 福岡町	ふくおかまち
能美郡 根上町 福島町	→ 能美市 福島町	ふくしままち
能美郡 根上町 山口町	→ 能美市 山口町	やまぐちまち
能美郡 根上町 吉原釜屋町	→ 能美市 吉原釜屋町	よしはらがまやまち
能美郡 根上町 吉原町	→ 能美市 吉原町	よしはらまち
能美郡 寺井町 粟生	→ 能美市 粟生町	あおまち
能美郡 寺井町 字 秋常	→ 能美市 秋常町	あきつねまち
能美郡 寺井町 字 石子	→ 能美市 石子町	いしこまち
能美郡 寺井町 字 泉台	→ 能美市 泉台町	いずみだいまち
能美郡 寺井町 字 牛島	→ 能美市 牛島町	うしじままち
能美郡 寺井町 字 大長野	→ 能美市 大長野町	おおながのまち
能美郡 寺井町 字 小杉	→ 能美市 小杉町	こすぎまち
能美郡 寺井町 字 小長野	→ 能美市 小長野町	こながのまち
能美郡 寺井町 字 佐野	→ 能美市 佐野町	さのまち
能美郡 寺井町 字 三道山	→ 能美市 三道山町	さんどうやままち
能美郡 寺井町 字 新保	→ 能美市 新保町	しんぼまち
能美郡 寺井町 字 末信	→ 能美市 末信町	すえのぶまち
能美郡 寺井町 字 寺井	→ 能美市 寺井町	てらいち
能美郡 寺井町 字 東任田	→ 能美市 東任田町	ひがしとうだまち
能美郡 寺井町 字 末寺	→ 能美市 末寺町	まつじまち
能美郡 寺井町 字 湯谷	→ 能美市 湯谷町	ゆのたにまち
能美郡 寺井町 字 吉光	→ 能美市 吉光町	よしみつまち
能美郡 寺井町 字 和田	→ 能美市 和田町	わだまち
能美郡 辰口町 字 辰口	→ 能美市 辰口町	たつのくちまち
能美郡 辰口町 字 坪野	→ 能美市 坪野町	つぼのまち
能美郡 辰口町 字 出口	→ 能美市 出口町	でぐちまち
能美郡 辰口町 字 寺島	→ 能美市 寺島町	てらばたけまち
能美郡 辰口町 字 徳山	→ 能美市 徳山町	とくさんまち
能美郡 辰口町 字 徳久	→ 能美市 徳久町	とくいさまち
能美郡 辰口町 字 灯台笹	→ 能美市 灯台笹町	とだしのまち
能美郡 辰口町 字 長滝	→ 能美市 長滝町	ながたきまち
能美郡 辰口町 字 鍋谷	→ 能美市 鍋谷町	なべたにまち
能美郡 辰口町 字 火釜	→ 能美市 火釜町	ひがままち
能美郡 辰口町 字 仏大寺	→ 能美市 仏大寺町	ぶつだいじまち
能美郡 辰口町 字 松が岡	→ 能美市 松が岡	まつがおか
能美郡 辰口町 字 三ツ口	→ 能美市 三ツ口町	みつくちまち
能美郡 辰口町 字 三ツ屋	→ 能美市 三ツ屋町	みつやまち
能美郡 辰口町 字 緑が丘	→ 能美市 緑が丘	みどりがおか
能美郡 辰口町 字 宮竹	→ 能美市 宮竹町	みやたけまち
能美郡 辰口町 字 山田	→ 能美市 山田町	やまだまち
能美郡 辰口町 字 湯屋	→ 能美市 湯屋町	ゆのやまち
能美郡 辰口町 字 来丸	→ 能美市 来丸町	らいまるまち
能美郡 辰口町 字 和気	→ 能美市 和気町	わけまち
能美郡 辰口町 字 和光台	→ 能美市 和光台	わこうだい
能美郡 辰口町 字 和佐谷	→ 能美市 和佐谷町	わさだにまち

巷で噂の「日吉芳朗」

全三巻からなる白水隆著「日本の迷蝶」の販売が始まったが、この大著の宣伝広告に、第一巻のヒメアサギマダラのページが使われている。雑誌やHPのあちこちに掲載されているが、「日吉芳朗」が三つも載っている。

ギフチョウ、今年の初飛は

三月二日、気象庁から桜の開花予想が発表された。金沢の予想は四月十日と、大幅な早咲きだった昨年に比べ十三日遅い。今年の初飛は十二日頃かとにらんでいたが、この様子では、二十六日頃になるかもしれない。

春の八重山のんびり採集旅行

日吉氏、三月四日から石垣島と与那国島へ採集旅行。小松八時半発で、石垣十一時着と、最近の移動時間は短くなったものの、採集には六日を費やす豪華版で、ゆっくりのんびり採集してくる。

あわてん坊が羽化したかも

三月十日はフーン現象で日本海側の気温が上昇し、小松は五月上旬並の二十一度となった。この暖かさを通り越した暑さで、あわてん坊のギフが羽化したのではと、毎日が日曜おじさんは、期待を込めて各地を散策したが、発見できなかった。

ヒメカマキリの生態について

県内では、まだ七例の記録しかない希少種だが、いしかわ昆虫館での飼育例があり、孵化は六月、八月に成虫となり、十一月まで見られる事がわかつている。県外では、八月、九月に燈火に飛来することが知られている。

市町村合併による地名の変更

県内では、既に七つの合併が行われ、これからも三つの予定がある。これに伴う地名表示の変更については、順次「翔」に掲載し、HPにも掲載するので、利用してほしい。

合併済の市町名は、かほく

市、(新)七尾市、白山市、能美市、宝達志水町、能登町、中能登町。

合併予定は、○五年九月の(新)志賀町、○五年十月の(新)加賀市、○六年二月の(新)輪島市。

トゲナナは越冬できるか

室内飼育では六月まで生き長らえるトゲナナフシ、野外では一月の積雪前までは観察できるが、その後はさっぱり。今年こそはと、二月下旬の消雪期から調査しているが、まだ見付かっていない。

マスクカバは青色がお勧め

スギ花粉の季節がやってきた。ギフが拝める唯一の季節でもあり、マスクやメガネなど、花粉よけグッズに身を固めてフィールドに出る。ところが、春の日差しに白いマスクが乱反射し、眩しくてギフが探せない。マスクを染めたりもしたが、カバが使いやすい、青だとギフも寄ってくる。

小松のポイント入口にチェーン

春は虫屋も動き出すが、農作業のおじさん達も動き出す。虫屋は、ほとんどの場合がよそ者で、農作業のおじさん達は地元の人である。よそ者の都合で地元の人が迷惑する、よそ者は閉め出される事になるので、くれぐれも注意してほしい。

例会の記録

一月二十八日(金)第一回例会を兼ねた新年会を金沢駅前前の割烹「よし久」で開催。

「石川むしの会」との合同開催となり、地元の虫屋が勢揃い。マイナーな虫や虫屋情報など、あらゆる虫情報が所狭しと会場内を駆けめぐり、大いに盛り上がりつつあった。

参加は、指田、田辺、勝海、竹谷、細沼、松井、浅地、大脇、澤田、山岸、江口、富沢、高羽、吉村、徳本、西原、石原*、吉岡*、石川*、吉道* (*は「石川むしの会会員」)の二十人。

会員の動き・しゃばの動き

バスを使った池沼の生き物調べ
 でかい口で池沼の生き物を
 食べ尽くすブラックバスこと
 オオクチバス。駆除したバス
 の胃の中から、未発見の水生
 昆虫が出てくることもある。
 バス退治を兼ねた生き物調
 べ、シマゲンでも見付からな
 いだろうか。

一月二十八日に合同新年会
 金沢駅前「よし久」で、「石
 川むしの会」との合同新年会
 を開催。遠くは愛知や横浜か
 らの出席もあり、虫への熱い
 思いが語られ、楽しい時間は、
 またたくまに過ぎていった。

虫屋を虜にする魅惑の輝き
 プリンカップで育てたヤマ
 トタムムシが蛹化し、二週間
 ほど経って色づき始めた。白
 い蛹が、除々にタムムシ色に

染まっていく。ホタルの光に
 も似た七色の輝きが、全身を
 包み込んでいくと、毎日飽きも
 せず覗き込む浅地氏であった。

ウラギンヒョウモンは三種？
 一年前に、日本産ウラギン
 が二種いるとか騒いでいた
 が、DNAを調べると、サト、
 ヤマ、ヒメの三種になるらし
 く、サトとヤマは全国で混生
 し、ヒメは限られた場所に
 いるらしい。

特定外来生物三十七種を選定
 一月三十一日、生態系に被
 害を及ぼす生物として、オオ
 クチバス、コクチバス、ブルー
 ギル、ミズヒマワリなど、三
 十七種が選定され、指定を待
 つばかりとなった。指定され
 れば、輸入や移動、飼育、栽
 培が法で禁止される。

能登でキバネセリが採れるかも
 金沢で、三十年ぶりに採集
 されたと思ったら、全国的に
 増えているようで、伊吹山地
 や対馬、奈良県などでも何十
 年ぶりが採れている。食樹
 のハリギリは能登にもあり、
 捜せば見付かるかもしれない。

石川県で四種が採集禁止予定
 二月十八日、ふるさと環境
 条例の「指定希少野生動植物
 種」として、四種が指定の予
 定となった。この中に、イカ
 リモンとシャープゲンモの二
 種が含まれ、指定されると、
 石川県内での採集が禁止され
 る他、保護区の指定や整備を
 行うことも可能となる。

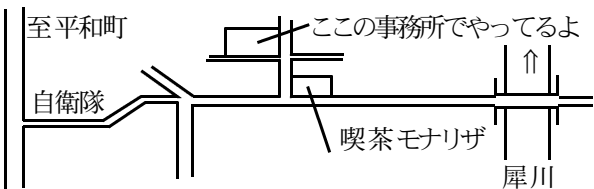
鳥昆虫倉吉支部と会誌交換
 発会のいきさつやら会誌の
 スタンスが、当会とよく似て
 いる鳥取昆虫同好会倉吉支部
 と会誌交換をスタート。同会
 のご厚意により、会報「ゆら
 ぎあ」を、欠号はあるものの
 創刊号から送っていただいた。

翔 173号

Tobu 2005年4月10日発行
 百万石蝶談会

<http://homepage3.nifty.com/100man/>
 金沢市大場町東871-15 松井方
 ☎920-3121 ☎076-258-2727
 郵便振替 00750-8-562
 印刷 小西紙店印刷所

例会は偶数月・5月・7月の第1木曜日8時から
 TEL参加もOKです (076-244-3318)



目 次 (173号)

松井正人：アサギマダラの春の移動に関する新しい知見	1
蝶談会事務局：能都町・柳田村・内浦町の合併に伴う住所表示の変更	9
蝶談会事務局：根上町・寺井町・辰口町の合併に伴う住所表示の変更	11
編 集 部：会員の動き・しゃばの動き	14